

新任事務長のご挨拶



福岡大学西新病院
事務長

きたお よしたか
北尾 義隆

7月に事務長として着任しました北尾です。前職は近畿地方の国立病院に勤務しておりました。福岡は初めての勤務となります。事務長の役割は、病院を運営していくために病院長をサポートして計画を立案し、それを速やかに実行し、成果を出す事であると考えます。しかし、働き方改革で労務管理を取り巻く環境も大きく変化するなど、医療機関には守るべき法律も多く、法令遵守にも努めていかなければなりません。

当院の基本理念である「地域に信頼される医療の提供」の実践のために尽力して参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

防火訓練を実施しました

さて、事務長の業務のひとつを紹介します。当院では事務長が消防法の防火管理者に選任されています。防火管理者として実施しました防火訓練の様相について報告します。

8月26日に早良消防署の指導のもと夜間を想定した避難訓練を実施しました。火災が発生した際にいかに早く患者さんを避難させるかの訓練です。2階病棟のリネン庫から出火。自動火災報知器が作動し、看護師がヘルメットと消火器をもって火元に向けつけるところから訓練が開始されます。消火器による初期消火活動を行った後、模擬患者を避難させます。火災が発生するとエレベーターは使用できないため、重症患者さんは階段を使って担架で降ろさなければなりません。当院ではエアーストレッチャーを各病棟に配置しています。このエアーストレッチャーは使用時に自動的に空気が吸入されて、底部がクッションになるため女性職員2名でも安全に避難させることができます。特に夜間帯は職員数も少なくなるため、エアーストレッチャーを素早く安全に使用

するために使い方を学ぶのも訓練のひとつです。模擬患者を全員避難完了させ訓練を終了しました。

避難訓練終了後は消火器による消火訓練を行いました。消防署の職員から消火器の使い方を教わり、「火事だー」と声を上げながら火元に向けて消火器を噴射します。病院長にも消火器の操作訓練に参加していただきました。操作は簡単ですが、使ったことがなければどうしていいかわかりません。参加した職員には貴重な経験になったことと思います。

医療機関はスプリンクラーの設置が義務付けられ定期的に点検も実施しており、火災発生時にはスプリンクラーが作動し、延焼するような火災はまず発生することは無いと思いますが、万が一にも火災が発生した際に職員が落ちていて患者さんを安全に避難誘導できるよう日頃の訓練と教育が重要です。職員ひとりひとりが正しい知識を身につけて対応できるよう防火管理者の務めとして「安心・安全な環境整備」に取り組んで参ります。





循環器内科



福岡大学西新病院循環器内科は6人の医師が胸や背中の痛み・動悸・息切れ・足のむくみ・痛みや失神などの心臓・血管系の異常が疑われる症状や検査異常がある方の診療にあたっています。当科の特徴は3つあります。1つ目は不整脈専門医や血管治療専門医、救急医が専従し専門的検査・治療が必要な患者さんにすぐに対応できることです。また更に高度な治療が必要な場合は緊密に連携をとっている福岡大学本院などの病院と協力して診療にあたります。



2つ目の特徴は専門的な検査を外来を初めて受診した日に終わらせ、迅速かつ的確な診断をつける様に努めていることです。心臓・血管のCTや心臓MRI、ABI、心臓や血管エコーなどの体に負担が少ない検査は受診当日に終わらせることが可能です。MRI対応ペースメーカーが入っている方のMRI検査も当日に可能です。その他にも心筋シンチや血管内エコーなどのより専門的な診断装置も揃っており、熟練した技師・医師チームが迅速・詳細かつ丁寧に診断し診療しています。3つ目はそれぞれの患者さんに合わせたオーダーメイド治療に努めていることです。病気の再発予防が目標の方には丁寧な栄養・生活・運動・服薬指導プログラム、治療で良くなる可能性が高い患者さんには積極的な治療、ご自身の考えや年齢などから積極的治療が適さない患者さんには負担が少ない検査や治療など、ひとりひとりの病状・全身の状態やご希望にあわせて検査・治療を提案します。当科では患者さんに迅速・適切で専門性が高いオーダーメイド治療を提供するために日々頑張っています。



臨床検査科



当院の臨床検査科は、検体検査・生理検査・超音波検査部門に分かれており、8名の臨床検査技師が所属しています。本年4月より新卒と4年の経験がある既卒2名の専任職員が採用されました。先進の技師が後進の技師を育成しながら共に学び、今後2年以内にすべての技師が全部門を検査できるようにローテーションを行い、「しっかり働き、しっかり休む、ライフワークバランスが整った魅力的な職場」を目指しています。

さて、臨床検査科の最近の話題は、なんとといっても小児科開設に伴う検査です。特に小児超音波検査件数は2018年4月～2019年7月までで149件、内訳は、腹部120件・心臓8件・頸部21件となっています。腹部エコーでは腹痛や下痢、熱源精査の依頼が多く、中でも、急性腹症48件のうち、感染性腸炎(ウイルス性および細菌性)12例、腹膜炎(急性虫垂炎破裂による)1例、IgA血管炎4例、腸間膜リンパ節炎1例、腸重積1例、その他、便秘3例など、35件で腹痛の原因となり得る所見を指摘する事ができました。

小児は啼泣・体動などで観察が難しい場合もありますが、根気強く、かつ迅速にできるだけ多くの情報を得られるように検査を行っています。現在院内では4台の超音波診断装置がありますが、小児のエコーはそのうちの2台で施行可能であり、看護師と相談しながら時間の調整を行っ

て、検査を実施しています。今後も、小児超音波のセミナーなどに参加して技術や知識を高め、超音波検査が子どもたちの代弁者となるように努力していきたいと考えています。

そして、検査科としては患者さんに優しく、信頼される臨床検査の実践、迅速で質の高い検査と情報の提供を心がけていきたいと考えています。

臨床検査科 古藤文香/伊東ひろみ





高取校区夏祭りに参加して来ました



8月17日(土)に高取小学校で開催された高取校区夏祭りに参加しました。

福岡大学西新病院からは、医師1名、看護師1名、臨床工学士1名、事務員2名が参加し、肺年齢の測定と血液中の酸素飽和度を測定する2つの機器を持参しました。

ご自分の肺の状況を知っていただく機会になればと、これらの機器による計測と医療従事者から結果の説明をさせ

ていただきました。肺年齢の測定には28人、酸素飽和度の測定には35人と非常に多くの方が肺機能の測定に来られました。来年も機会があれば是非参加したいと考えています。

福岡大学西新病院はこれからも、『地域に信頼される医療の提供』の理念を全うし、地域の皆様のかけがえのない健康を守るための医療を提供できるように邁進してまいります。



栄養管理科からのおすすめレシピ

「秋鮭ときのこのあったかホイル焼き」

食欲の秋。鮭もキノコも美味しい季節です。

簡単なのにおしゃれに見えるホイル焼き。

魚の種類も、上にのせるお野菜もいろんな種類が楽しめますよ。

● 材料(1人分)

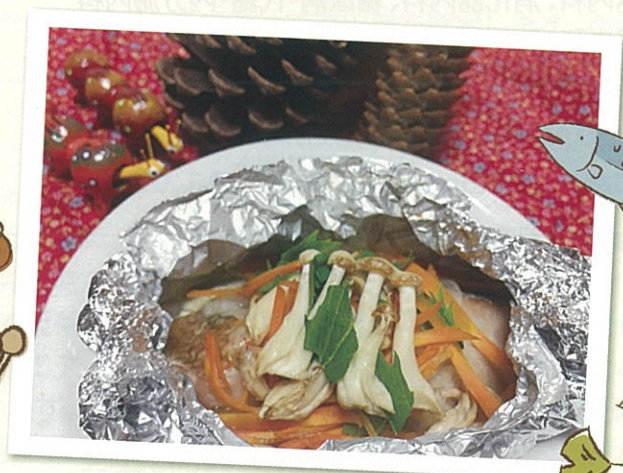
秋鮭(無塩).....一切約80g
 塩.....ひとつまみ
 こしょう.....少々

きのこいろいろ.....手のひらいっぱい分
 玉葱.....1/4個
 人参.....1/5個
 水菜など緑の野菜.....少量

バター.....10g
 または オリーブオイル.....大さじ1

アルミホイル30cm幅×30cm 1枚

かぼす、ぼん酢など、お好みで



● 作り方

- ① 玉葱は薄くスライスし、人参は皮むき器で薄くそぐ。
- ② キノコは食べやすい大きさにする。
- ③ 水菜は一口大に切っておく。
- ④ アルミホイルを広げ、①を少量敷いた上に、秋鮭をのせ、塩・こしょうをふる。
- ⑤ ④の上に、①②、バターをのせ、アルミを閉じてオーブントースターに入れ、15分加熱する。
- ⑥ アルミを開いて、鮭に火が通ったのを確認できたら、皿にアルミホイルごと乗せ、③を散らして出来上がり。お好みでぼん酢をかけて召し上がれ♪



合計(1人当たり)

エネルギー：230kcal

たんぱく質：18.9g

塩分：0.5g(ぼん酢大さじ1をかけたら1g)

管理栄養士 齊藤 ちづる